



續
五
人
集

下



續五元集卷之下

自元祿十一年
至宝永二年

元祿十一年

きくみみ鞆のふわいさる葉

秋風の露巻はねの袖けて 晋子

はる見のよめ小母の体せ

弟袋捧小かさばる雲母坂 晋子

かかとわくし心傍正の菊

葉て取るささきさきさきの菊 晋子

糸糸袖小二人葉りこれ向い合



酔く酒屋を繪とつらく
晋子

風を不流るやうに

海へかけこむ舟の心さうし
晋子

うかづて船をぬく法花経

谷の樹ふちをえんを輝涼し
晋子

歳らと若く如き我像

きふの月古今の業を許さる
晋子

江戸をながし和良比新は時

先良童あはし 山伏
晋子

け幅の紙漣川一舟も入流

こから教へたるる雀乱
晋子

何小強さう業深の裏

きうは小鶴判とやいふ
晋子

只人の舌を八知合ぬ七り紋

つゝはある婢子とあ物
晋子

犬と居ぬるぬゆふはあ物

芦教へ杖てあふる日備取
晋子

辻ツチ風古の中よりある鳥

深山木ありてく麻と金乃李 晋子

河川やさむさも人乃一圓

少くと書流ハ唐く李乃月 晋子

元禄十二年

とらきりん少又や者とはつてん

瘦くを念をか指より帆 晋子

印新の仲人多く誰有月 全

山乃つきく只ハねのそが念

芋むし一ツ藤のゆきま 晋子

簾をもやきくかきと 明育 晋子

糸川てのりきふる帆のけ船

嵐のゆきく書討きく由歌 晋子

太平記ゆきあけらん过や一 全

口きりて紙障へおる籠漬

夏夜乃月れ庵もかかす 晋子

下河系ふききふまらう枝

茶抄ゆきくは一トの枝 晋子

菩提寺ゆきゆりおほくも経巻 全

田水多うさきハ何ハさず唯ヤ松

子と川を先々ぞんぞん 晋子

眩々小忌日の使名乃袖ぬん 全

清月や鞠又さきそぬ新帝 晋子

わ社勢うゆくも志いけりぬ布 全

長髪か真うをばれ松の根 全

徳養の室を院をあらひ也

十二柄吞ハ已り一年 晋子

世の中は百首讀さるふ中 全

麦せ果る穢かひて何くらん

買かろそへ隠者やゆき 晋子

花乃時松木川ありエこヤヘイ 全

端之に履うると荒て小廿稔

芥ももかき次 幅の玉 晋子

後を危と免そ帯むすらん

夫かろきろて様よ思ひなり 晋子

欠落猫又猪早を出次

穿人よ僧のきくハ表門 晋子

志とみみまをふくむ羽二重

田中并み稚子乃狗打はく入縄 晋子

何このほみ障子とまゝ子紙目

紙灸をまゝ入也流るる川原 晋子

古やいもる期九月にかる船

笠かといふ物類き方の材木 晋子

京へ来りてかゝる意の頂上

娼とまゝのりて路ふま変居 晋子

らる本は紫神系は倉中掃とまゝ

麿見危し沖中乃岩 晋子

まゝ磁土へ西風の皮ホを藪

ヲを田糶みま月如駒 晋子

うしろに固をとまゝの老

干夕付るる二帳、口唇破 晋子

吾来をまゝ何と言まき海しと

祇耳あすしとまゝ惠文後 晋子

足とくまも彼ぬまれぬ芦を馬

庫裏く裡のお後とまゝ 晋子

牛房おつゝまかゆ浪人

大原女の子めく時ふ小曲う鳥 晋子

元禄十二年

ふしつらりと屋根葺きて月は姪

寝ふ竹さねの早ねあんなく 晋子

まごゆるるふれ耳てふるる子

初追の子おは指とかかりて 晋子

筋ちかろ一ノ麻ふよれ

形ねの影見んまふ月夜 晋子

月

空ふんく山と遠く障の夢

くりんせうりして四ふれ字も 晋子

食釜おらにけと浮船

おろお水と起し湖膜落合く 晋子

と動ふ入ぬ書もあふまは雛子

回丸の帳うくはきまてくれ 晋子

元禄十三年

履のまは徒然知能とはとん

卯の刻うらや名き辰の市 晋子

續五下

亥

多々元とあふぬ花の生かじ
 来ハ久こととれしかへて去
 晋子
 韓よ依く垣しみさ文
 晋子
 こほれくろ布蒔と波る洞川
 晋子
 秋凡よき乳れり垣の房
 晋子
 ニ急外を帳ふせしれおるこ
 晋子
 月阿ささ承の月いふふらぢらん
 晋子
 清府の火若くむまかした菊
 晋子
 暗り峠うぬよのきりぬし

元

才三

力あしく親チカ月ふあぢ 大力 晋子
 一利刀く月代乃難 晋子
 あんあやくとさ路り申一危盛 晋子
 一昏ハ鬼門の澄くはどろ 晋子
 重く半く又朽し芥の柄 晋子
 門穿て字旨味さかく挿子破 晋子
 七乃やししれ古脚ハ以さ 晋子
 ありをさかく子路あり 晋子
 蛸塚よきとれをがと極つん 晋子

腹見て改め流女を以て末

室川と百万遍と北多川 晋子

秋山とと上り節君を以て

日向てあふ盛物の裏 晋子

まぶ借人の鞆口り鳴る

さげ月も代は流心深櫃 晋子

膳の香とすく櫻くつし

散花は流るる人常せよ 晋子

茶刈う様よ小義とともを

花 月 晋子

きれ鞘をる谷乃眼さし 晋子

土壘の態ハ刻とよむ森

摩耶道一親の目そもわねす 晋子

かんみ席も物ふやうよここと

栢の目もまゐるわ白かゝあさ 晋子

修く道よ若れ石亀

淡本綿よまぶく之里磨砂 晋子

点漏の節目あれや之扶持

昼守かすふとをうぬる保 晋子

意

ワキ

空の香や際中ある昏の橋

提灯の威ハ舌猪あるとろ子 晋子

埋火の額の花と松かきとて

刺の鞘をとめとむし 酒より 晋子

小径はあつらふ乃光明

百里はくはるハ幡掲げ 晋子

眼と坐落は芥の面目

耐子粟ぢれものともぬ人心 晋子

上下は塵壺の氣何のこゝん

月

一村を体じ屋根葺 晋子

眼を流凡さをくぬ

月すめし肩は葉子を起て漕ぐ 晋子

農人ともし 新小 一雨

佐むら代ふし 是のうゝ 晋子

鞠ニワ巻縮緬乃ちさしり

女若人、も遊と入る 月 晋子

け悠々 那作の袷はるく

糖由一又 密夫 ち事次 晋子

ふくや重宝のふくや葛の紫

晋子

三つのおしころをうけとる盤

はさかりの腰とち凡

晋子

行ふは盤をうけとる身の色

ひくもはくくは行く時

晋子

三室のまぐ入たふ

蜷の智恵はぬは道へ川

晋子

唐安まのまぐもはまの

うらまのぬくもはる物

久 久ふ旅の物末をきける 晋子

は系たふかたはる年の母名

孟 もまのうけとるころり 晋子

元禄十二年

氏子たはたふ國へ乃衣 晋子

借はるものかりりきより金持て 晋子

及りともかりふあえとも免く

法 のまや割本種る水た下 晋子

羽織出くハ又心はるる

大指とことぬらりぬる船 晋子

散る花とまのたがゆる中あ様

晋子

風中く何きく子あ散すん

いつくをうてふれらわのあし

晋子

流さる川よ崩と足程ハを念と

くつさあふらかりしる物月

晋子

馬子乃午話する分たとの秋

津輿初屋よりと蛇の面あす

晋子

折花ふあうむを葉とがまへと

花

五

眉をうきむかりをれらるる

晋子

意乃作絵はふまうり物

巾入やすきえをみちの浅

晋子

まのきりすふ返に世居のたを益

本よりあ所を二方荒神

晋子

畑くろ一口茄子ゆきとりて

足糝りたるきハ鴨の羽音ハ

晋子

細代の小屋と 越後 柳

木のくまうく佐保姫の眉

口

去月

七粒よりらおしく見よくれの月 晋子

葉枯く佛よある 湘一臥

似る里といふはくし 柿の足 晋子

歌よそくか 竹猪子まり

宿杉ふ仮名付しるるとも 魚 晋子

海生ふは常より西の花さか

まふとも入くは 鐘撞の俗 晋子

忌心のうちさ 相成らねしき

柳河草とささくぬやふ片ひき 晋子

月

蔭もこも重りしはとも 更衣

ぼきん乃教ハ 凡大名 晋子

益出しる 煙利らるわれ

木枕の中より 此の月 晋子

醉あくらん 女房よ 研しき

卯ころふハ 多し 藤し 居る 晋子

秋の月 常は 抱と ちきしらす

又世の 産後 ありの 常 湘 晋子

つめくぬ 祢の ころね せ 涯

息をそそぎてさきよ何やらん 晋子

持もむきあやしくもなほ紙

任吉の家の雌松楊多ふき 晋子

きりぎりすけりさくらまき

秋香ハ西施を足さる人の樹 晋子

欽明のむしハ金持浦多や

経書の訓を口伝しする 晋子

小キ國又二度の大切

花見して人のうきよとこがえり 晋子

うき 向の上はたきへちみく妙哉 晋子

さかやけうと籠けもせ

ふたはひいりく寝とうやき 晋子

髪結女ハきりあひりし

漫旅の店もあきうすま 晋子

老てし所の目斗ハそのま

光 花盛猶ハあはれありふくや 晋子

うつつアハ者ハあはれも目斗

纏手とつる起人の教 晋子

母ははしどに之井おはし

葉中乃古所とんは夜とあて 晋子

毎夜ハ地獄もあふ禱の

去るはうらまゆるなる 晋子

元禄十三年

雪ふくくしに足らぬ

うらみおまるとく 晋子

河ふらとまふてせり切

月の目圓へんす 高軒 晋子

啼・心こころのうらみ

中波はうらみとよひ裸 晋子

世たふをよみかた若あて

中へはもあふくくし 晋子

世たふのうらみとよひ

雨たう奉まてとよひ死の袖 晋子

油せし心てこのうらみ

有玉今ハ遠京 奉公 晋子

みよのふりかへりてしるしとよめるさき

我子成りてく世をらるねにやうき 晋子

雷のこゝろ熱不のびー

十万里はてこえり(峯の本) 晋子

秋をえくせし(京都)の月

殺商者の毛居ハ下ノ事ト捨る 晋子

くうきふ雄こころ里遠排

風中まじりてくけさるの身をケ 晋子

これの月為たの始は十文字

東ハ赤糸綯刈上乃小屋 晋子

懐い上戸のねと心を割

五月雨又方をと喚ふかを討る 晋子

能登之友の心ハ地分山下風

馬と夢切おまを秋亭 晋子

あつちをくく枕もさう南

四もまをさいつくぬめ長と靴色 晋子

活津絵の腰ハやふはく右に裳

阿の石とくく歯のぬけに夜 晋子

之井の獄屋の人をねらふ自

侍の血賣しありは衣掛 晋子

念と詠つる儼々あま疵

すく〜こや中夜を糾く糸枕 晋子

老僧の手炉とをきり蓋は

花よ斬つハ斬草は生ハ 晋子

鞠うと早く門へ花出る

袖の月谷中掃する花臥 晋子

四宮の勸進能ハ中絶く

五

世ふあき宿も弓を心秘首 晋子

夕ききし糸ハ拵あふ 悔

はみちるす瓶の飯も御後川 晋子

照月よ扇を人ききけつく

由骨と雪とくも咽ハかとうの 晋子

不意ハるあふ舞る凡中

清水と雪とハ舞の形うひ 晋子

岩橋のそを袋のりまきく

うきよは伯父ふき〜のうれ 晋子

了百

花より折孔雀は武人のあふ

汐干びくん 浦崎の 孫 晋子

号をとる男はふしむ

綾書あつかり下馬の人立 晋子

嘆て雲をより 石は角

於人の肘かきくる帯袋 晋子

座をうりて袖をうりて

志

かきく刺しとりのまはくしそ 晋子

夏も帽くし松尾の三寸

花

弓夜乃花小押事 松尾山 晋子

かほらむは枝もすはは大橋

口キ

溜々と桶ちのむくく 晋子

高ふてちもきくぬ軒伏

月

中常標小きいづく軒門乃月 晋子

紅きあや竹塚車に車后

刀よかしくむ藤をの 糸ね 晋子

福又叱す千支の肩

女房よ襖をたらしも春の衣 晋子

時きくぬ石二ハと竹の蓋

籬、吼く汐星を月 晋子

雪下もあらの濁る月夜

花さるるあまのいそげ詩も海む 晋子

岩さる海 舞 サシマウラ も春のあ

うそは鞆の寄く宮ホ木 晋子

ちんを此妖る人もる 腰え

かこ糸を根結らるるもくもらん 晋子

こころも不破礼の棧桐の舎わま

役者小福を依に 目役 晋子

まのくは泣ぬハ鬼子あらん

ちか徳多様さ戸き月ハ山 晋子

むく小ぬぬ吉さる危十七

吉母さハ切さるく桶の音 晋子

ワキ

牡丹もみみ唇や初は露
山陵の榮け寂とまは山
晋子

月

ふなす夜ももる月の
こゝちあらも折る露の
晋子

表

日判を結く仲宿は宇治
幾日中もまゝ船の詠白
晋子

こゝろは昆布種殖地を
みよとまはる花の露は
晋子

表

柄扱押申る幟のかけら
晋子

道後木綿の深は遠邪

室鞠は去る時ととや
晋子

名刀てまゝくまゝは

晴胃を浴り傘の
晋子

粉川の飛浪屋を
晋子

秋もあゝあゝ昔は
晋子

俳人を東風よる
晋子

扇よるまゝは
晋子

烏帽子より筆を袖と揮^ヒ出^ス

松尾中より梅も腰に付 晋子

人々後々舳へぞんがら

熊坂の長刀もそもぬき舟物 晋子

浪あつたくちりる舟着枕

片々の舟を扱そりる舟二換立 晋子

新屋の孫らりる舟の中

岡の戸さしも浪をさそりる舟 晋子

一ちりる舟を早小舟として

ワキ

乃忍とよ心ハ祈^ヒ忱を 晋子

時の旨と強^{ハカセ}てあそりる舟

火うらせぬ小舟あそりる舟 晋子

舟の舟もあそりる舟

麻の背もあそりる舟 晋子

紅葉の舟もあそりる舟

河原津の舟もあそりる舟 晋子

舟の舟もあそりる舟

舟の舟もあそりる舟 晋子

綿木指ふ門も正月

箕輪ハ柳橋ハ山柳陰 晋子

経机がくけくおく當の敷

谷小洞をさうに 山城 晋子

鞆割くハ曉のけ

月夜 いさよのふ初を灸白あらん 晋子

かりいさハ皇おハ翹ふ菊の花

あハめと見ゆるハ巻舌の洗濯 晋子

世ハ刺とハふハ松の下ハけ

樓門の庭ハくハあさうめ 晋子

岸富ハのハうハふハお牛の息

根巻のハおハ虎ハおハ音 晋子

鞍とハたハてハ工ハ友ハ一ハ為

月夜 うかれめふハあハとハおハきハ世ハのハ月ハのハえ 晋子

驢河ハあハもハ拭ハけハおハ是ハハハ景

八十のハかハ子ハ八十のハ客 晋子

所ハうハのハまハしハせハおハおハ葉

月 祝うハ考ハしハめハへハ移ハるハ花ハのハ條 晋子

朝の月五里を伝は鴉とて

白王居へともふをさあつし 晋子

文通く朽木の青あふい出

一寸の牧の芥小むく一羽 晋子

髪明を初まき月か片月と

青女房乃り留るといさく 晋子

けくもる麻もくおれとあとの夜は 全

相口と標ふけし夕陽と

とよふ居りしもいとぬ遠る 晋子

ま ま

花

五月

肝膽ハ法をむ標とさくろと

格ふとくあはれ息を山 晋子

那もともおふれる興楽

花のむり子所位の蝶 晋子

まの月御室ハ白き旗浦志 全

質けらあき甲斐文の徳か

稼著のこもむしをく同し 晋子

むくくハ志くは馬籠も森

初巻と是と名をくは月く 晋子

尾を物々とする鳥帽子虫毒 晋子

と牛野々くハヒマヒマと云われ

御患の門ハハハハハハハハハハ 晋子

周粟とおほしめしむる毎

舟ハ虫くおしく赤丸の人 晋子

邪説とも目証ありく七依辺病

名の~~~~である世の 血脈 晋子

駭足も病あり侍せぬ鞍の上 全

版くハ絶のおハ何ハ社

藩戸ハ一ありしハ長者あり 晋子

はくめの義の肩ハ~~~~ 全

代士の先子あるや赤木の花

路を乃小股をく~~~~ 晋子

おの地位の小さく~~~~ 全

茶湯を種ハ種拂ハハ~~~~ 晋子

けるも様う~~~~ 花の外

五十年来 梅若の墓 晋子

罍のみあるハ赤木の~~~~

唐鉅尸二仕柱杖も掛ふも 晋子

切草をむらひあひめ花層

海をりそえさし猿乃 陣 晋子

うらうらと寝ハどりも南天

草の花に玉の服とくそん 晋子

かふれそ物自抱く紅ふ物

かふれそと袖の濡ぬ川香 晋子

ト垂の流るも此は糸桐

涼しやく盥の中ふ傘片し 晋子

卷

早

花

入方のくさめ鼻と実れ

講堂乃大工をひり種のおり 晋子

猿猴まわつて温枕とりそそや

くさも隠居へそりれやまそ 晋子

くさめ推し子よ花の落髪

枉破喰草履と極み推てり 晋子

けり物子足柄足する箱のと

い服のあくたやちふ花ふ命 晋子

後片ふ物く彼軸きく

借海を舟にわはる車借 晋子

二やうのくしは狭きよきみと

月星の伏張大根して出ふ 晋子

本と虚骨とは又ぬ其意

夕風子早徳うきく舟舟 晋子

傀儡小粒を折まぬ親の言

金うおるうぬくアム秋 晋子

やまももあはさ山あらま

はねふさう極茶を其堂つら 晋子

五

五

海産婦も御湯よりハ啜り

沸をよそとさる義國の事 晋子

柱あくりてくあふ月出く

京乃シニシ威きう楊弓もぬれ 晋子

四ッ目サキ點ハ舟乃まふ合

と食ども難ゆるうサキ煎今の中 晋子

天も相と考る乃ちらん

江戸の園ハ隣まかくまう虎定山 晋子

ちんちんくわく水くもくせん

亥

三升栲と蚊居くむの言 晋子

多殿成をより以養う世

梅様 相とむる色くかけ火焔 晋子

借金と棒にかけて候あり

夏腐の脈の切り 佛名 晋子

小納戸の襪新ハ風乃宮

月

二日月もいれども丹輝く 晋子

廿秋子金座ハ腐の結を

亥

かゝる皆那威の女中あり 晋子

ヤケ句

新焼よ花と花も友の法

岩う足とねけり 炭柳 晋子

たきよとけりよは清き多仙

才三

黒ちやお多かりい乃外袖半是 晋子

月よとくまの何をも言申す

赤子の跟 ちやと 晋子

揖のおうを中撥ぬり

教経と彼よ吹捲る志り多 晋子

二重のふふ 梁へは交り物思

捕手、破る、臨門、乃、楠 晋子

二反三、田、ハ、限、田、ヨ、月

お、撲、神、禰、よ、成、て、あ、ま、ま、や 晋子

夕、山、ウ、ハ、も、花、を、さ、ら、し、く、ウ、タ、川

午、犬、近、く、春、乃、滝、音 晋子

床、入、あ、ち、を、さ、ら、し、く、種、お、あ、ら

對、馬、一、ウ、ハ、人、冬、の、橋 晋子

箱、乃、け、又、四、さ、ま、と、ハ

夕、夕、礼、ハ、親、仁、一、と、よ、く、神、未、留 晋子

月

孔明の、刀、け、あ、る、と、麻、布、角

る、ま、ま、か、の、く、妹、の、東、は、月 晋子

お、頼、鏡、女、新、や、姥、乃、并

玉、何、く、礼、稱、を、さ、ら、し、く、女、君、あ、ら、ん 晋子

は、堂、ヨ、川、の、水、あ、ら、し、く、何、く、よ、か

取、中、と、く、ま、た、通、系、り、像 晋子

ハ、十、ハ、く、と、ち、あ、ら、し、く、あ、ら、し、

及、の、花、羽、黒、道、者、を、判、正、し、 晋子

粘、買、又、弱、束、と、ち、流、し、お、あ、ら、

花

言

ワキ

おしこやうしふハ一の秋 晋子

茶碗おろし女人を何あそぶ

一對の男みあふふ 半晒 晋子

行灯と圍うるなれハ友務同

是ハ出さる怒浦海りめし 晋子

一様手あふれを波のらみめ

小坊をと袂籠るゝ傀儡師 晋子

杉怒美ハ 孫太爺あり

禪乃口切ハき小花の、ち 晋子

花

晨朝の早ふらなる為ま籠

敷のきくいあり人も出の尻 晋子

あま共髪と湯を初れ

夕月夜供と減らしと七路草 晋子

死なふらうる玉に嫂の掃

刃へうる家格の玉を心ま 晋子

薄縁の若菜と土初け

家徳利乃は免ハ 橙 晋子

浮世信小軍ハ入るを不仕

月

水一斗見割れ乃 以身 晋子

酒瀧又ハ火懸斗と云ハ

怒ハ初マニコ葱乃出カ刻 晋子

身ウ番と不上船ニ出ク 全

西の方オウウ有ク人環乃自

其と 嗔ハ 馬多 雷 晋子

紅紫と人ハ終とウク海晏也 全

龍考子黄金用つくく分

こよハ世方の甲子と云ハ 晋子

五

性悪を代りたぐ猿々

所化り起く亡命 兎 晋子

家付雨系合十九人の中 全

樽浦乙ハ一石オモキウモク

袂ウ 洗ハ花程ニ泥 晋子

志のまウ有ク人乃ウウオモ 全

志名輪へウウウウウウウウ

格乃 登査ハ 仲間乃 晋子

湯色と云ハ門オ獨 全

按摩取者人取上もろりまは

身 禪乃 彩と 正の 一 晋子

手 此きれぬ 傾城き 逆と 棘を

此もろろ ちろろ 彩の 小 指も 撰

比 而 女 灰を ち 流 ち 以 廿 十 月 晋子

強 ち 相 寄を 流 ち ち 月 全

明 川ハ 麻と 福 也 ち 也 晋子

羽 二 三 結ハ 密 ち 又 ぬ 晋子

か 進 ち ち 干 綱と ち ち ち ち ち

長 屋 ち ち ち ち ち ち ち ち 晋子
東の 船 借ハ 西へ 花と ち ち
お 新 ち ち ち ち ち ち ち 晋子

元禄十三年

海 ち 乳を 吞と 投 入 笑 ち ち

之 店 道 の 残 ち 村ハ 信 ち 晋子

更 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

月 上 ち 月 ち ち ち 月 ち 解 ち 賣 晋子

掃 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

嘉子ハ是をかきゆ一日 傘 晋子

鯉の梅の泡もある 蓋

多打テハらちこり清紙 晋子

比糸の細ハ花の鳴子より

水笠と中務侍奏を雨 晋子

造り足ても秩子 曲屋

洞窟を屏風か出まし唐すく 晋子

元禄十三年

地虫の夢の五十町道

才三

負ふもぬ親を行司か扱く 晋子

糸もすへに音か巻損

竹買の伏見通ハ廿日也 晋子

栗賣の裸し出る仁湖寮

多羽かぬんかた 唐櫃ナニ 晋子

回口よ庭の脇に柱木屋

下限乃むし倍と明く 箱 晋子

鞆乃けらりくと足か

きりもむし心 研トギのト押 晋子

能古鞍嵐之回不兔立

寢塩のぬけくぬけ乃ととと友 晋子

噴拂ひく指違ふとと

鈴の声辨ふ能流 御室 晋子

追凡か川のまゝく流列し

子善ふし〜 小治 晋子

元禄十四年

唐書無のまじ二把の事ありゆ

子敷おほ日々 杉原もあし 晋子

ワキ

北河より中老僧の寄松苗物

針目をふたぬ 高杉も怪 晋子

ワキ

元禄十四年

涼凡小相ふ矢はるや 臆 モウキ

手ぬいをるくもる 堀貫 晋子

ワキ

曉を〜 鐘をのり〜

灯 又すあき中流乃 曠 ニメキ 晋子

ワキ

元禄十四年

野分が〜 水百流の河〜

川舟の舟に於て舟師を雇ふ事

舟師の舟を雇ふ事

舟師の舟を雇ふ事 晋子

紙や買ふ人 橋の渡り

舟師の舟を雇ふ事 晋子

舟師の舟を雇ふ事

舟師の舟を雇ふ事 晋子

舟師の舟を雇ふ事

舟師の舟を雇ふ事 晋子

元禄十四年

舟師の舟を雇ふ事

舟師の舟を雇ふ事 晋子

舟師の舟を雇ふ事

舟師の舟を雇ふ事 晋子

舟師の舟を雇ふ事

舟師の舟を雇ふ事 晋子

舟師の舟を雇ふ事

舟師の舟を雇ふ事 晋子

元

一番町をつまのけの板

月夜役花の陰多の俱生神 晋子

却立れ敗毒散ハ五人にめ

枕刀子かゝ鞋とねく 晋子

志のふの園も四十八巻

志のふの園も四十八巻 晋子

志のふの園も四十八巻

奉引乃面とらるゝ依り子と 晋子

歳々々々々々々々々々波の表

元

元禄十四年

新張と丸茶子もほましく不

高多板車も成し 山さ 晋子

藤とむさし木村の琴

か悟多と申月式乃不まき 晋子

かけくももほましく月おまき

赤い蛙ハ、初年尸 晋子

服あこころハ 晋子

達戸以後邪波の表ハ晋子

元

一番町をつまむけの板

晋子

月夕役花の影多し俱生神

加立は散毒散ハ五人にめ

枕刀子かゝ鞋とねく 晋子

志のふの国七四十八巻

志くく子墨子のふ肩根き 晋子

志くく子墨子のふ肩根き

奉引の面とくハ依り子と 晋子

歳もくや白於き波のあ

元

やく子襪^メ裸^シ夜く力不焼 晋子

土墨谷へ投一重箱

聞祝^{ナリ}兄大佛多々奈良の末 晋子

蠟燭けをぬふる竈馬

今春にあやしく人も袴の月 晋子

京橋手はものどもと下よ

百く小豆は命さるかぬ 晋子

坂東節もはくさるる

及は味骨の影のあふ那さるる 晋子

月

玄

艸 只も七ツ具も春らに

花の枝をさけに 耶 耶 晋子

玄

能足代ふらひき氷と雪ひら

白柳とふも 袖り 追凡 晋子

握る 風ハ 南無佛の舍利

罪 九小 乾くもと 晋子

河系 紀又 涼 乾く 申く

何 痛くも 情 節を 川車 晋子

凍くも 若くは 晋子

早月

柄抄り 嗚ハ 月をらんやうれ 晋子

鼻ふれやい、 晋子

花 花ハ 納屋に 着き 晋子

一ツさき 晋子

壺 晋子

舟ハ 五艘ハ 山王の 晋子

銀 晋子

晋子

晋子

花

元禄十五年

新嘉吹時乃藤と栂の家

才三

卷櫓と犬と投まゝ序之

晋子

東宮家多仙の物もあらず

打たれぬの屋敷 千坪 晋子

考へてハ小石も右と付く

灯と人々も明ぬ 相成る 晋子

吉野の村とて祿申月

狭道小入 雜炊とて 晋子

花

居るく少く小き竹 菱地

宗中にもアセぬ山 晋子

元禄十六年

柳櫓小 絆乃六尺

才三

中長屋風中 晋子

車籠やとろ 晋子

才三

千鶴と鬼も柳ふちとせく 晋子

晋子

才三

学小ハハとまゝと 晋子

才三

風の冷寒し冷より松葉風
桃の酒帳夷唇整ふく

才三

唐のがしら松葉光りく
らんかふ雛の居凡の雛めく

才三

八重玉核 壺の口張
をのうき結糊指揃ふ芳解く

才三

孔雀の羽屋へ 梅の花は
干大根 還城系小初ら世く

重く阿くくふ表字は字新

才三

野ふくしのまふ小初く若孫也
晋子

才三

絶けきる高枝 新年
菰の紫の二宮ゆらる山里系
晋子

才三

め茶の配着高車お解と
と秋年以っ孫そく小雛子初く
晋子

才三

大臣乃四方松よ長魚斗
鼻の穴らハの穴も 帳ゆへ
晋子

才三

去しの鶏も草屋の遊風
權 初ふ紅書 けろふかけろひく
晋子

續五下

才三

世ふ試乃榮抄ワウヤク
永キりとらそくしはま海蔵めく
晋子

才三花

小橋うきハはせ乃下橋
流の花仕白どのあひいも免く
晋子

才三

くらき水柳もうけ乃姉
カビタしとた乃肩とイラハ祖イラハもく
晋子

才三

あま水とぬく車渠乃四止
常う瑞穂と面小鴨り天
晋子

紅粉も川ハ花の仲ま

才三

やぬ乃馬支橋下ハとをむく
晋子

室永元年

梅の神子ハ扶もく

才三

仲乃名取とらんハうけむく
晋子

空持姫小がしそりも私の間

箒木竹ケく掃てゆく馬
晋子

八幸と恒のもち一人とむく

才三

物日よ斬りし一尊入り立
晋子

中土のきしそる屋四十刻

天さかぬ初へそく生體 晋子

土形子童子抱く東宮より

下跡ハ千住を借初る月 晋子

念あり早くと信ありと信入

神の香も四守のさそ瑞々 晋子

宝礼元年

うらけうき記とら初る務授

志々々々々々々々々々々々々々 晋子

故もあささささささささ

亥 正しやくと鳥衣初出所ハ多地 晋子

鳥衣ハ小帳とやと古事記

小神亦か扱しと所記う礼 晋子

荊節之ハ撰すうと記お棒

新ラ屋子ハ花もぬ糸も考るハ以 晋子

風情をあやむ木骨の尺一

遺粟を遺粟小石く山ねろく 晋子

髪結も他の玉藻也あきうめ

融ガ川、扱うもさささささ 晋子

秋苑

亥

花とへ人を浮田の森に杖
名やけの暖簾喜の下節 晋子

何吹ハ張子の中と鼻
いふ節と二代目乃及 晋子

系漸しくむけつれとわろ
系買乃あやへ事おもあわや 晋子

榎小枝より竹々喜ち付キ
志く強ふるの塚あそ持病うれ 晋子

南天衆灸きくもつるを

ニ才とふくあさるかけあひ 晋子
枝小枝より丸茶とつむ
久茶の神さけり物と志をえ 晋子

はしをき録く干乾るん
家員とくハせて思き呼子を 晋子

宝永元年

英のむらぬひをきむけ
お後とれ居小結とあしむ 晋子

シバくと便むくさ中益田

才三

足半を袖へ袖へ入る 晋子

琴の師道を伝へて又食

とめよかき 晋子

〜印力車はあつて

鶏卵二本 晋子

沉香もきり居候之侍

也 晋子

先考をふ 人のかやあり

先考をふ 晋子

二十位へ下敷きをもつる

物 晋子

何いまたか 晋子

はまふか 晋子

言打 晋子

月と見と 晋子

穴 晋子

股をふえし 晋子

洗ひ 晋子

汗粥小氷とれあに神くさ 晋子

痛のそくはふ光とさく

番所の朱子とるあは花獨 晋子

花小種もあもあわとさよ

八重山あさき京へ出ぬ人 晋子

嵐と勢もきんもまう

裸身の大眼さし乃さまふ 晋子

志無ははいふ居るお孫の上

下まおあつは屋あはしやじ 晋子

月

雞の勢付もむとをか

あつる月々大盤若 粥 晋子

脊中へちとあま盗人

後切の志くああ山ハ花 晋子

いそそ山一りりりり御客

額ぬり給くあはらうさく 晋子

汗のえあふ何うあはあ

いそそ表盤の目もあ定あま 晋子

木の馬ふ曲そのもあ善施度

元

亥

阿難迦茶一銀子以ささる 晋子

内小麻ゆ夜に花の雪丸

はくしくとまはれも銀をさす 晋子

女中をいさる殿様かす

山村う稲荷の社東おさく 晋子

村おま白乾のかいおさる

御小進ても八十の髪を 晋子

中の料理いさるお茶並

かやのみこまいんと物とまをぬ 晋子

月

麻糸をいさる角心もか

月如年次磨ハ浮世お茶所 晋子

大内山の麻世石も花

初寅や之人のを先好中事 晋子

氷凝るを推も紋も志同巻

聖人おさるおさる小使 晋子

城ハ六の筋乃新方

待月小障子申を也る艶眉 晋子

かさ袖乃ぬらぬの町

月

日キ

五

附子ととやうに次中いひまゝん
晋子

稀ふまゝに人より強氣とてまゝせて

五

親の枕を和らぐぬいし信
晋子

何れも人の園をばあくまゝ芝

館川の高根の深き根をさく
晋子

まつとくは輪をかく徳縁をけ

金柑ぬきをまぢりまぢり
晋子

足踏ふかする根もまぢり

調布のまじり種縁をまぢり
晋子

まぢりまぢりまぢりまぢり

白くふれぬ何れもまぢり
晋子

白くふれぬ何れもまぢり

五

一匹のまぢり鬼のまぢり
晋子

一匹のまぢり商人花のまぢり

糶をまぢり外郭のまぢり
晋子

禿く仕立せらるる子の膚の中

くまじり洞 明りり太く
晋子

一袋の袋の具とてまぢり

ア子句

そり盡と 先納乃先 晋子

若汀を以て志行ぬ小便

友棚乃卯月多れと電干ス 晋子

精多し人月は之を一ひき

鏡以磨く是を以てく 晋子

旅白を病人と見く親は花

峯句 亭言は胸を以てく 晋子

木とこく島ぬも神の神

こころくく 晋子

梅は妙心ハ古師の市

その年よ如まんの祝月を以て 晋子

羽車は扇を以てく

夕虫は病人を以てく 晋子

鞆乃尻と如く

之里を以てぬ 晋子

神を以てく

今此縁敷之尺縄小かけく 晋子

丸太を以てく

端は少き家をつま見はあつらん 晋子

情ま紅鶴の結句勝興

仁志あつ人を起く目と枕古く 晋子

ましこ川東よりふはれ雲

同く枯葉小杉の實乃色 晋子

山川多履法倫味情を同

入月や楫小つまをれ腋の音 晋子

葛北紫の伯又武の松いづら

法まを初乃 稔のよれ中 晋子

云

ワキ

ワキ月

難より武士小ぬすまはるる 晋子

湯左衛門の谷の印まを訓て

楯小楯嵐とせおふやうかり 晋子

月よこへつる羽平屋の傍に

余はの空帯小古忌かきと 晋子

疲くはるれも喰わ花盛

楚の何つへい南禅寺より 晋子

免わかくあき方親ハ周々

ト之材のあふあうあう 晋子

花云

月

賣五下

五

とゆる河あしは君より 國 晋子

二種 陰やわゆる 志の埋火

蓋版の種かかみくは糸 晋子

舟下子 影さいくきり 晋子

かほ 廿 勢ふ 絶屑 晋子

人し 昨月ふ 無川の比 晋子

臺ま 実床ま 羽後ま 晋子

花ハ げか 賀お 侍り 晋子

一 方をも ちや 物 晋子

挙句

五

河豚の志を 晋子

まの 晋子

かみ 晋子

暁の 晋子

肉 晋子

鏡を 晋子

涅槃像 晋子

金子と 晋子

厚年紅を 晋子

晋子

月

二下^し扇^あ拾^り少^く月^と待^つ 晋子

風^も不^く動^か結^ばい^て如^くも^も

融^とい^てい^へ水^戸乃^り塩^電 晋子

中^に其^の松^楳木^の以^て也^{なり}

子^を流^し水^のか^ら子^を 晋子

水^を雲^ふ合^掌樋^の糸^を引^く

そ^のか^らい^ちも^も千^金を^積 晋子

富^の篋^を浩^然の^家

那^の字^を方^を度^の糸^をも^もや^る 晋子

船^は板^を小^の舟^を思^つ坊^をと^と並^ぶ

ぬ^くと^さわ^るい^ち乃^り鞆^子

去^らハ^け就^て虎^の毛^を油^をん^せ

之^の輪^乃奉^じ乃^りま^るい^ち乃^り 晋子

綿^帳小^の舟^を以^て露^も新^糸

石^の心^の禱^ハ不^ら乃^り乃^り乃^り 晋子

夕^日小^か乃^り袖^も日^と里^に

切^れ乃^り乃^り乃^り乃^り乃^り乃^り 晋子

友^の麻^乃乃^り減^立寒^乃乃^り乃^り乃^り

花
意一面

月

遠^ク遠^クとくひ小^コ萩乃^ノ袖^{スベ} 晋子

かきくも序小^コ爪の^ノあい^イ指^サ

月

月の^ノうち^{ウチ}は昔^{ムカシ}は男^{オトコ}はく^クとも^{トモ}こ^コ 晋子

う^ウう^ウ同^{ドウ}小^コ落^{ラク}て^テく^クあ^アし^シ私^シ語^ゴ

所^{トコロ}之^ノ所^{トコロ}あ^アう^ウう^ウ目^メ一^{イチ}産^{サン}月^{ツキ} 晋子

水^{ミヅ}の^ノ出^デえ^エれ^レと^ト名^ナを^ヲわ^ワる^ル

そ^ソの^ノう^ウう^ウは^ハは^ハら^ラう^ウは^ハ後^{ノチ}取^リ 晋子

た^タく^クあ^アし^シは^ハ園^ノ生^ノ花^{ハナ}の^ノす^スら^ラり^リ

天^{アメ}乃^ノ川^{カハ}流^{ナガ}ふ^フ花^{ハナ}物^{モノ}の^ノそ^ソ尾^ビ 晋子

花

多^タ少^シの^ノ抱^{ダク}らん^{ラン}す^スあ^アの^ノも^モこ^コり^リ

ち^チり^リと^トま^マふ^フ花^{ハナ}の^ノ静^{シヅカ}も^モ半^ナ合^{ゴウ}点^{テン} 晋子

白^{シロ}い^イ止^ト遠^{トウ}え^エせ^セよ^ヨ 猫^{ネコ}も^モ物^{モノ}言^{コト}

旅一面

ま^マめ^メく^クや^ヤ馬^{ウマ}不^フ嗅^クする^ル菓^{クワ}子^コ袋^{フクロ} 晋子

不^フ任^{ジン}の^ノ力^{チカラ}を^ヲ清^{スガ}の^ノ時^{トキ}と^ト借^カか^カし

漕^{カウ}を^ヲ舟^{フネ}に^ニて^テハ^ハ故^{コト}を^ヲま^マる^ル怒^{イカリ}舟^{フネ} 晋子

志^シの^ノふ^フ乃^ノ、[、]記^キ述^{ジツ}心^{シン}臺^{ダイ}の^ノ吟^{ギン}討^{トウ}

月

残^{ノコ}月^{ツキ}小^コ小^コを^ヲ 部^ブ百^{ヒャク}文^{ブン}如^ニし^シ 晋子

を^ヲ乃^ノへ^ヘす^スし^シめ^メ中^{ナカ}に^ニせ^セハ^ハ楫^{カヌヘ}ま^マる^ル

九佛乃日記を十佛のノ 晋子

あま〜河の玉体つ小茶

夕鳥印〜此才子を一片のさ 晋子

太夫〜此中陣まゝ花お折

清浦近〜以さゆ〜鯛 晋子

富士長扁

鳴沢や幾双の奇南此更衣

鶴 蒼鶴も 将乃ゆ〜ゆき 晋子

砂懐〜おれ菊乃以と

所と〜此翁さゆき 紹鹿 晋子

香料乃烟と〜此心三種〜

存るとか加子を浮橋小縁 晋子

朝鮮人乃〜らある 略

雪ハ花 赤人乃手にある〜 晋子

河津川を〜〜の津床乃具

百も〜名も 鹿子 半分 晋子

叶と〜ぬ深れ指津平と〜

ハ〜見へ〜お月〜ん 玉明の唇 晋子

〜と〜い〜の紫ゆ衣も百日は籠加

斗あきと湯と何の代 晋子

つらふら南約二里や後月

一 種きくふ五百粒はく 晋子

濃をあらふは鱗の穴

橋と虹と田小畑と時とく 晋子

小菅は乃鬼小流を枝の根

指とゆいとのふとは変 晋子

序鹿ふ土色の餅とく

と乃ははの譚譜と月 晋子

袴糸は辛夷法白と吸

所と紅粉の及ちるいふ喜日新 晋子

はあやめあや足気仕男へ

葦ふふいよあ表や八代が丸 晋子

伊お力、鞍之途小がる九折

童の尾少ふはあひふは 晋子

木の舟也路 千手観音

福川の光を花と人の歌 晋子

は講義に忍ふくや愚州

花

早

七百匹と祓ふ数ハ一 晋子

子姑もけち里り椰子切らる

庚の宵ふ慰中ハむれく公いさ 晋子

ぬもつ月小つるまて我ハ香

五

祓のそるゝ想うお袋の側 晋子

夕汐尺くく神ふ解く

流矢乃才ハあへくふる尻 晋子

後此あへくハ綾此ハす

五

大毒の反麁香を花の雲 晋子

清まきき鼻ハ奉書此ハつ

重頼の名ハきくえぬ後ハ火 晋子

ちれハそきくハ萩の深草

兔の子鞠ハ入くあうくさ 晋子

入れのさ丸らんくをうんて

物ふ吐くく物文り物ハ 晋子

籠の尾の枝と漕く花の上

アケ句

きくくハ茶を袖ハ折く 晋子

障ハ木末小ハくま一序

卯月

有明の舟小車とかきけとて 晋子

一寸ふしの鼻くらきけとて

忘

ねりいもや中吐血とて代 晋子

い童てかきへる若狭の舟

繪持ふもれくもきけ 晋子

右とらむけ光女殿へ盃

月花

もろく入敷後の向きや白ひらり 晋子

穢多の端を女社へ去權子

うねりや水邊流れくも思ふ 晋子

門くかほえる六命左衛門

河曼院翁く礼をせしむ二百あ 晋子

くらまけく笑やく柿俵

ワキ

又捨ふもね 秋ハ山人 晋子

むふふこまに請ふ幸いぬ

療癒の筆ふぬふてか梅のさか 晋子

鼻樂ハもついつふの本坊坊

うかぬ軍と誦めふら 晋子

奈良とけとあそやまわ清洲

小表具のまは夕トと干て足わハ 晋子

達广 寺ふおりの行るる雨舎カサ

吹草糸乃 素袍 尤 晋子

江戸者の伊勢の灯月の

かろる割漉と多紙の秋 晋子

荷袋の浦の草匂漸シ

名物の庄栄へ格お花の咲 晋子

尿瓶の月推糸の掃もかろる

工桶シの蜀 蚕の真 晋子

花

しらひ買シて走る 是れ

迷い子と泊る定めぬ 酒の酔 晋子

秋月や月ハもふ貴クき

原田次郎ハ袖ハ世の妻 晋子

か湯桶ハも反シをくけふ

講中ハ巳ノ巳と夕ハも通 晋子

瓢ハよく軟ハいもね目下

靴ハ小むふもろ乃 蠟 燭 晋子

狭ハき素袍ハ心ハのハま

五

屏風好物りふはハミテお久々 晋子

塩衣の纏と習けハ干以て

アケ旬

ふとくの坂を 今お坂 晋子

新月の御信由しき便ふ

ワキ

登乃白髪ハ 際のみと生 晋子

内夜宿ハ 江戸を古師

世の中と底ハ 月ふきうこ 晋子

逆刺も夜の御とつあきて

五

女もはふ男 人形 晋子

擲ふかぐ神の志

菅根筋と四尺階子の行らふ 晋子

滝地へ賽をと 辰忌市

大令う入あいと 一花の荒 晋子

切者ある雛見はふ管や

切篝のおさと 一ぼる 晋子

うらふく 浮屋はか山の花楸

面の粉袋ふ 糶はく 晋子

家宿の灯と風の竹おけり

印し書さうはと食の氣 晋子

こつれらうは陰の言は石二

辰今小孫をふとんをりし 晋子

学の嘆実一しきりてに

笈の聖元紅山をぬまき 晋子

浅黄調の白いかくれ

月も絶ぬ見うらへ御き 晋子

凡のくけうは留の書ふ

房の道大を外ふまをく 晋子

川さましく刺ハるるが

あつまつまふ又ふふ九条傳 晋子

寶永二年

泣水の子まぬまは屋

赤み輝けし右とりの客 晋子

湯水新あき日ハ新を

新のま月書ふあはい吹ぬあり 晋子

常捨不始辨らうまは

借子小暮盤 浮橋の友 晋子

五

月

五

ワキ

月

一物も何事もや帰らぬ年

ワキ

度秋友申ひさき若水目さゆし 晋子

昔外より水船ハ棒外り

尾より言まきと狭きと隠里 晋子

返り幕の川と鯉とやこれの味

甲と先へ地を毘州門 晋子

吃飯の所を専らをぬ中

流星ハ治命と尾根へ流すん 晋子

傘ハ絶句ゆちく帰るん

五

和泉式部小孫お借様 晋子

宝永二年

明衣ハからし尻小憐遠

月

月小あふお杉お玉う板庇 晋子

しんあ流しもの細くすしき

五

梅路をかこ新所願のら 晋子

宝永二年

六乃一終てハく連沢

五

百人杖持く阿やうき 晋子

五

いそく所合をいそく後

髪先を伴て活山何を

晋子

亦地乃小袖小石書志何

帝口乃捨もこまう活山何

晋子

徳をこころとすかたの神

穀粉あうれく芥肥る溝

晋子

く樹の力を投らると根は既

御所乃掃除まわらひあり

晋子

里と山をこ半傍を鹿

五

近赤ハ脛胸脛あす棹の枝

晋子

さいあめと海ぬ赤進の盤

樽いたら〜と酒を呑

晋子

家一つと治帝の門は也

羨も人をと牛跡えわうれ

晋子

神の火煙のあた力

白味啼ふ草いみふ〜

晋子

路よりハ川友志うも又

うぐ証打を鹿小迷い子

晋子

度僧此仇よりかぶき初月也

鴨さへむね鬼灯の皮 音子

根も晒し今も昇進

松糸杉燐々明々都々を以 音子

糸の屑這ふ所々廟の蟻

花 泥龜も花ふすらん不定 音子

師の勢如古灰を吐

才三月 志陰如情子とのほる月如字 音子

よ海羽千里も度のをこし

廿三

土索^た若ハ種^たの出る處をたらん 音子

一さ^くら糸の由^ゆけス

塩^しを^し糸^しに^し不^ふ碎^{さい}く^く情^じに 音子

二挺きらうらうらと

去 乞ハハ^いハ^い後^の糸^を買^ひ糸^を 音子

灯^あの^あ夜^の糸^を買^ひ糸^を

小^この^こ糸^を買^ひ糸^を 音子

糸^を買^ひ糸^を 音子

色^を買^ひ糸^を 音子

白元

解そりの形勢も犬のまゝある

童姥のかきぢんぢん八月と元 音子

桐の紫ハ上戸仕面ま白いと

五 平ルヘイと折る櫛も把の指 音子

鳴川を以て法着ハ襦あさん

五 汀く物ふ那治ハはれあさ 音子

き川を以て岸迄ふまの筑波山

五 阿くまふともかすく鯉城の足袋 音子

杖延ハ爪封かくく今月の

五 子と寝をさくる氣曲ハ化由 音子

大堰川末ふと柔め音の船

五 口吸きく新君ハナ噴ハ吐 音子

高帆ハいさあふあハ中長

茂呂布と小曲ハ小曲く折鳥帽子 音子

拾合とくろ蕨ハつとつと

五 蕨康子かろぬハ小町あま 音子

あれ子おかいそ新樹の紅梅姫

五 目面ラたうき睦ハくく 音子

云

座席ひらめて聲あまら

晋子

寤いそきを洗濯の太鼓をきく

収めよと農と知る序の巻

登ハ眼と甜くゆす人

晋子

席のり来ようあはれ中

高きハ秋の言れもあうへ

晋子

手とくしハとくつふし

吸後娘ハの今も又

晋子

白宙よ答ハ投ま心腕の音

云

月

日

いとくちくふや辱く乃藤

晋子

夕かちやして何つふ一刺本

猫も暑がる 牽け 伝

晋子

すいとくしる 深乃 伝物

夜いとも四方指子月のみま

晋子

鐘鳴くふんときあつて

金子の事と序さくやく

晋子

白くく通る 友話の結

友達の血をいこくつて

晋子

五

凍るる子々 浅淡鞠の上
 凡ふハハハハハ 積乃 年つき 晋子
 床隣主のそお母も居凡紙
 小枝の誓紙 厚も 死をく 晋子
 うき世縁と云く 借ハつておき
 放るれく 京へ二町をいしき 晋子
 御月身々事々 灰の皮きり
 雷を唄く 落つて 月乃 糝コト 晋子
 小灯小描作多乃 春空をく 那

月

ワキ

五

摘切糸乃 くらぐれ やく 穴 晋子
 肥地ノの松乃 樹々々 乃 晋子
 字ノ鳩乃 所化乃 揚弓 乃 晋子
 殿方の状と 既院ノ 乃 晋子
 人ノ板ノあき 今ノの花 乃 晋子
カマ 世ノふノもノかノまノいノぬノきノ乃 瓦 乃 晋子
シヤ 勝ノ摩ノ乃 藍ノ乃 釋ノ乃 乃 晋子
 神子ノより かつし 髪 乃 晋子
 油ノをノも 草紙 乃 洗ノ乃 乃 晋子
 晋子

砂子出る苗もかまはらぬ

牛うりきりぬ 柳橋の足 晋子

おもしろい世もかうおもしろく

高花 汗はらへば花もさかす 晋子

朝法めだてぬや足袋の糸

ワキ 湯薬をかゆる 腰の焼合 晋子

明皇ハ下戸の方より起す人

すこし帯と彩むき振り 晋子

かしのもつらゆ船の中

澄みおこめてむらさきいろつらき 晋子
五月雨よとまきさへはく 礼装

高 菓子屋糍ハ切ら 拾かた 晋子

車をとるく度る 牛車

天秤をとるくまふい護戸の櫃 晋子

顔も物も溜鉄の聲

高 空焼の灰を孔雀の玉帯 晋子

あのもふ牡丹と提ぐ袖の目

岩漏りの爰と 葛切 晋子

元

舞と取痛の念多下付

花もくふ情のさきさきやあつく純 晋子

田ハ新しやのまゝ寒さる

持ぬるの持本を借りて持礎 晋子

今更も扇子の出合ふ影さそ

仇く思ハさる座まゝくくふ 晋子

石二の月賣場の瓶ふ流る

兔の肌を 持人と舞 晋子

幼十郎、むらとささる

月

かぐれてハ牛の子はあつ水邊人 晋子

綿本の代ともさき包梨子

月見むらりれ二條 夜泉 晋子

手玉のさき腐る 納豆

腰張の番もむらりかみ山 晋子

川むらむらりさきとれ糶賣

元

雪女よハ帯、黒くく 晋子

北月をといや、賞を以花盛

侍の氣をとるわらる 春 晋子

アケ旬

昔寶曆二申中秋 百萬旨原校合

五元集其角勺選 全部四冊出來

東都書肆 日本橋通二町目 前川六左衛門梓

○崇文堂藏版書目

江都日本橋通南三町目

前川六左衛門

駿臺雜話

鳩巢先生述

五冊

漢隸字源

閔先生校考

六冊

元明史略

明舒弘謨

三冊

五常五倫名義

同右

一冊

正字千字文

同右

一冊

世說新語補逸

宋劉義慶

一冊

鳩巢文集前編

鳩巢先生

十冊

太申自新箋

閔先生正

一冊

神武越精標題

村井先生著

一冊

同補遺

同右

六冊

五體千字文

閔先生書

五冊

新定三禮圖

唐本翻

四冊

同後編

同右

十五冊

篆書唐詩選

黃山先生

一冊

書東式

春基先生

三冊

毛詩古註

漢鄭玄箋

十冊

篆書唐詩選

南樓先生

一冊

讀詩要領

蘭林先生

一冊

周易古註

蘭臺先生

五冊

篆書唐詩選

古詩

近刻

孟子考證

同右

一冊

孟子古註

漢趙岐

七冊

六書精蘊

太常魏子

六冊

講習餘筆

同右

四冊

楚辭

漢王逸註

六冊

太申樓記

三井先生篆書

一冊

謝上蔡語錄

同右

一冊

論語皇侃義疏 <small>南郭先生校閱</small>	十冊	大橋庭訓往來 <small>大橋先生</small>	一冊	烏石先生赤壁賦 <small>真書</small>	一冊
度量衡考 <small>官制但來撰</small>	二冊	同書札集 <small>條田先生國畫入</small>	一冊	同後赤壁賦 <small>同右</small>	一冊
左傳辨誤 <small>明傅上凱</small>	四冊	同改年帖 <small>同右四季文入</small>	一冊	同藥石論 <small>真大字</small>	一冊
同音釋 <small>同右</small>	一冊	同今川 <small>同右八景詩歌</small>	一冊	同寶刀銘 <small>真書</small>	一冊
同異名考 <small>姓名辨異明關光德</small>	一冊	同當用集 <small>書法入</small>	一冊	同鏡銘 <small>同右</small>	一冊
老子音義 <small>唐陸德明</small>	一冊	同假名手本 <small>三休伊呂波</small>	一冊	同愿卿帖 <small>同右</small>	一冊
和漢年鑑 <small>後藤世鈞年代記</small>	兩摺	同書用集 <small>詩歌</small>	一冊	同五君詠 <small>艸書</small>	一冊
三韓世表 <small>井上通雅朝鮮八道圖</small>	一摺	同風月往來 <small>大字</small>	一冊	同秋興八首 <small>同右</small>	一冊
對聯柱掛 <small>但休先生正面摺</small>	一卷	同消息集 <small>條田先生石摺</small>	一冊	同竹樓記 <small>行書</small>	一冊
北京皇城圖 <small>大繪圖彩色入</small>	一摺	同池凍帖 <small>大橋先生石摺</small>	一冊	同讀雪庵記 <small>同右</small>	一冊

誹諧五元集 <small>其角先生</small>	四冊	同初學手本 <small>石摺如字多</small>	一冊	同成章帖 <small>同右</small>	一冊
同續五元集 <small>同右附合</small>	三冊	同重葉集 <small>條田門人實書</small>	一冊	同畫山水歌 <small>同右</small>	一冊
論語集覽	廿冊	同江戸往來 <small>石摺條田</small>	一冊	同草訣百韻歌 <small>譯文附</small>	一冊
百菊譜	一冊	筆法溫知書 <small>筆持用記</small>	一冊	繪本此年花 <small>百人看誹諧</small>	一冊
四聲使蒙解	一冊				

界紙色々



